

カトリック行橋小教区：主任司祭 ベリオン・ルイ神父

## いにしえからの便り

げんざい せかい しゃかい  
 現在の世界と社会の中で、イエス・キリストを信じ  
 る者、カトリック教会の一員として生きることとは、ど  
 ういうことか。「福音宣教」とは何か。このような問い  
 かけに対して、「おずかしくてわからん」と思い、考  
 えようともせず、諦める方は少なくないようです。

せいかつ せい いっぱい じょうたい う  
 「生活をするのに精一杯」という状態の中に埋も  
 れている多くの方のことを考えると、その心境がわ  
 からないわけではありません。



\* それにしても、私たちはイエスによって「地の塩」  
 「世の光」とされたこと、「塩に塩気がなくなれば、  
 何の役にも立たない」(マタイ 5,13)と言われたこと  
 を忘れてはならないと思います。

「真夏が続いているというのに、また、おずかし  
 い話か」と思わないで、どうか皆さん辛抱強く読み  
 続けてください。

てがみ いちぶ しょうかい ことば  
 ーある手紙の一部を紹介して皆さんがその言葉に  
 静かに目を留め、その言葉を参考にすることが  
 出来ればと願う次第です。

\* デイオグネスへの手紙です。その手紙を書いた  
 人もあて先のデイオグネスがどういう人かも不明で  
 すが、おそらく2世紀の終わりから3世紀の初めに  
 エジプトのアレクサンドリアで書かれた手紙であると  
 学者たちは見なしています。

い かしょうかい ぶんしょう ぼっすい  
 ー以下紹介している文章は(抜粋)「世の中のキリ  
 スト者」をテーマにしています。

『キリスト者は、住んでいる地域によっても、言語に  
 よっても、また生活習慣によっても、他の人々と異  
 なっているわけではありません。自分たちだけの町  
 に住んでいるわけでもなく、また何か独特の言語を  
 使ったり、風変わりな生活を営んでいるわけでもな  
 いのです。その教えは、詮索好きな人たちの考え  
 や思いつきで考案されたものでもなく、また、他の  
 人々のように人間的な教義を打ち立てることに心  
 を砕いているわけでもありません。

かれ うんめい したが  
 彼らはそれぞれの運命に従って、ギリシャの  
 都市や外国の都市に住み、衣服、食べ物、それ  
 以外の生活様式の点でも、その土地の習慣に従  
 っています。しかしながら、常識では信じがたい、  
 驚くべき生活を送っています。母国に住んでいま  
 すが、それはあくまでも寄留者としてです。市民とし  
 てすべての義務を他の人々とともに果たしています  
 が、外国人のように、ありとあらゆる辛苦を味わっ  
 ています。彼らにとっては、どの外国も母国であり、ど  
 の母国も外国なのです。

他のすべての人のように結婚して子どもをもうけますが、生まれたばかりの子どもを捨てることはありません。共同の食事は整えますが、床を共同にすることはありません。

肉体を持って生活していますが、肉に従って生きてはいません。地上で時を過ごしますが、天上の市民なのです。定められた法律は守りますが、自分たちの生活では法律を凌駕しています。すべての人を愛していますが、すべての人から迫害されています。無視され、罰され、死刑に処せられています。それによつていのちを得ています。無一文ですが、多くの人を富ませ、ありとあらゆるものに事欠いていますが、あらゆるものに満たされています。軽蔑されていますが、軽蔑によって栄光を得、悪口を言われても、正しい者とされています。のしられても祝福し、侮辱されても相手を敬います。よいことをしても悪人のように罰されています。しかし、罰されてもいのちを与えられるかのように喜んでいきます。ユダヤ人たちからは異邦人として攻撃され、ギリシャ人たちからは迫害されています。しかし、彼らを憎む人でも、その憎しみの理由を指摘することはできません。

一言で言うなら、魂が体の中にあるように、キリスト者は世の中にいるのです。魂は体のすみずみにまで行き渡っていますが、同様にキリスト者も世界の諸都市に行き渡っています。魂が体の中に宿っても体のものではないように、キリスト者も世に宿っていますが、この世のものではありません。

……体は魂を憎み、不正な仕打ちを受けているわけでもないのに、魂に対して戦いを挑みます。

体が快樂におぼれることを、魂が禁じるからです。不正な仕打ちを受けているわけでもないのに、世もキリスト者を憎みます。彼らが世の快樂に反対するからです。魂は自分を憎んでいる体とその肢体を大切にします。キリスト者も自分を憎む人たちを大切にします。魂は体の中に閉じ込められています。魂を支えているのは魂のほうなのです。キリスト者も、いわば世の牢獄に閉じ込められています。世を支えているのは彼らなのです。魂は不滅ですが、死すべき幕屋の中に住んでいます。キリスト者も、朽ちることのない天を待ち望みながら、朽ちるべき世の中に寄留しています。魂は、飢えや渴きによつていじめられるとかえってよいものになります。キリスト者も苦しめられれば苦しめられるほど、日々その数を増してゆきます。神は彼らにこの偉大な地位を割り当てられたので、それをかなぐり捨てることは、彼らにはゆるされていないのです。』



☆以上の言葉を時々思い出し、味わい、日々の生活に当てはめながら意義のある夏を過ごすようにしてみてもいかがでしょうか。